

風力発電事業に係る環境影響評価の計画段階環境配慮書作成ガイドラインの概要

地域の環境保全に配慮した風力発電事業の導入を促進するため、配慮書作成に当たって配慮すべき事項とその考え方を示すもの。

1.はじめに

1.ガイドライン策定の背景と目的

- ・2023年3月、第2次県実行計画が改訂。2030年度のGHG57%削減に向け、再エネの最大限の活用とアセス制度の適切な運用・点検が明記
- ・近年、一部の事業で重大な環境影響の検討に課題。配慮書手続の趣旨や本県の地域特性への理解が不十分
- ・手続の趣旨や地域特性の留意事項をリスト化(注)
- ・配慮書の内容がそれらに対応しているか、事業者自らが事前に確認できる仕組みを導入

2.ガイドラインの位置づけ

- ・法アセス事業の国ガイドラインを具体化・詳細化
- ・環境基本条例に基づき事業者の自主的な取組を促す実務ガイド

3.最近の配慮書手続の課題の事例

- ・事業区域の四方にイヌワシの繁殖地があった事例
- ・事業区域の一部が自然公園と重複した事例
- ・地域の重要な眺望景観に重大な影響があった事例

4.想定される読者

- ・事業者、コンサル、行政機関、地域住民
- ・配慮書が双方向のコミュニケーションツールとなっているかを確かめる目安

5.構成と改訂

- ・国の既存のガイドラインを出発点に本県の地域特性を踏まえた内容に整理
- ・事業者の創意工夫を掘り起こし、順次改訂

GHG：温室効果ガス（Greenhouse Gas）、CN：カーボンニュートラル

2.地域とのコミュニケーションの進め方

1.市町村や県への事前相談

- ・法令上の区域指定等を事業の基本情報として整理
- ・配慮書手続前に基本情報シート(注)で自治体に説明
- ・関係法令の手続状況の整理

2.地域住民への周知と説明

- ・地域との円滑なコミュニケーションを図るため、
- ・配慮書手続前に施設の設置計画を周知
- ・配慮書手続前に地域の懸念事項を聴取
- ・配慮書手続中に内容を説明・意見を聴取

3.地域における環境配慮の考え方の聴取

- ・促進区域※の検討を通じて明確化される地域の環境配慮の考え方を事業計画に適切に反映

※促進区域：温対法の地域脱炭素化促進事業の対象となる区域

3.配慮書作成のポイント

1.基本的事項

- (1)複数案
 - ・重大な環境影響を回避できる複数案の比較検討
- (2)重大な環境影響
 - ・影響を回避する計画段階配慮事項の適切な選定
- (3)調査、予測、評価の方法
 - ・複数案を比較検討できる評価指標の選定
 - ・専門家のヒアリングの実施とその結果の記載
 - ・環境影響の有無や程度、目標との整合を比較整理

2.事業実施想定区域の設定

- (1)事業計画
 - ・経営計画における事業の環境保全の位置づけの整理
- (2)スケジュール
 - ・調査から運転開始までのスケジュールの整理
- (3)風況
 - ・風況データを踏まえた有望地域の抽出状況の整理
 - ・炭素削減量、総事業費等社会的、経済的効果の算定
- (4)自然条件
 - ・想定区域の標高等地形条件を把握できる図面の整備
 - ・土地の安定性の状況を把握する図面の整備
- (5)社会条件
 - ・土地所有者から土地の状況や懸念事項を聴取
 - ・送電線、変電所等との距離等の整理
 - ・輸送道路の検討状況の整理

(6)導入規模の想定

- ・総出力、風車基礎・基数、風車設置想定地点の整理
- ・カットイン風速の調整やフェザリングの遠隔操作可能な機種選定の検討状況

(7)累積的な影響

- ・累積影響が懸念される重大な環境影響の適切な選定

3.計画段階配慮事項

(1)騒音・超低周波音

- ・被影響対象の有無、距離ごとの数の記載
- ・類型指定のない地域の静穏性を考慮した評価
- ・複数案の比較に基づく配慮事項の検討
- ・十分な離隔距離の確保

(2)水質

- ・普通河川、水道水源、取水施設等の位置の記載
- ・複数案の比較に基づく配慮事項の検討
- ・水源、保安林等の環境影響の回避・低減

(3)地形及び地質、地盤(土地の安定性)

- ・地盤沈下が生じやすい場所、面積、距離の記載
- ・複数案の比較に基づく配慮事項の検討
- ・保安林、砂防指定地等の環境影響の回避・低減

(4)風車の影

- ・被影響対象の有無、距離ごとの数の記載
- ・複数案の比較に基づく配慮事項の検討
- ・風車のローター径10倍程度の距離の確保

(5)動物・植物

- ・重要種の選定において設定したキーワードの記載
- ・広域の調査範囲の設定、解析的手法による影響把握
- ・複数案の比較に基づく配慮事項の検討
- ・自然公園、緑の回廊等の環境影響の回避・低減

(6)生態系

- ・広域の調査範囲の設定、解析的手法による影響把握
- ・生食・腐食連鎖を通じたカスケード効果の記載
- ・複数案の比較に基づく配慮事項の検討

(7)猛禽類

- ・広域の調査範囲の設定、解析的手法による影響把握
- ・イヌワシへの重大な影響の有無及び差の丁寧な記載
- ・想定区域から10km圏内の他事業の累積影響の整理
- ・複数案の比較に基づく配慮事項の検討

(8)景観

- ・主要な眺望の範囲、方向、対象、構成要素の整理
- ・重要な眺望景観のフォトモンタージュ予測の検討
- ・眺望景観の変化の有無、程度の客観的な記載
- ・複数案の比較に基づく配慮事項の検討

(9)人と自然との触れ合いの活動の場

- ・被影響対象の有無、距離ごとの数の記載
- ・複数案の比較に基づく配慮事項の検討

(10)その他の留意事項

- ・図表や文章の記載上の工夫・配慮

(注)巻末に、留意事項に係る「チェックリスト」、事業の基本情報を整理する「基本情報シート」の様式を掲載